

人権教育に関する特色ある実践事例

基準の観点

指導に関する校内研修の工夫改善に取り組む実践事例

1. 基本情報

○都道府県名及び市町村名

兵庫県豊岡市

○学校名

豊岡市立但東中学校

○学校のURL

<http://www2.city.toyooka.hyogo.jp/edu/school/tantou-jhs/index.html>

2. 学校紹介

○学級数

【通常の学級】 4 学級、【特別支援学級】 1 学級、【合計】 5 学級

○児童生徒数

【全生徒数】 1 1 7 人（平成 2 5 年 1 1 月 1 日現在）
（内訳： 1 年生 44 人、 2 年生 36 人、 3 年生 37 人）

○学校の教育目標、人権教育に関する目標など

【学校の教育目標】

生きる力をはぐくむ教育の推進～自らが主人公となる生徒の育成～

【人権教育に関する目標】

（基本目標）「自己実現と共生をめざす人権教育の推進」

（重点目標）・人権教育推進体制の整備・充実を図る。

- ・生命尊重の精神を培う。
- ・生徒の自己実現を支援する。
- ・多文化共生社会の実現をめざす教育を推進する。
- ・人権尊重の学校文化を築く。
- ・家庭・地域・校種間の連携を深め、人権教育を総合的に推進する。

○人権教育にかかる取組の全体概要

(1) 「共に認め、高め合う集団づくり」を目指す授業研究

- ・新たな課題（インターネットや携帯電話等）に対応した指導内容の充実
- ・表現力やコミュニケーション能力の向上
- ・自主性を尊重した指導方法の工夫

(2) 豊かな人間性や社会性を育む体験的な活動の充実

(3) 人権意識を高める効果的な学習教材の選定・活用研究、外部講師の招聘

(4) 家庭、地域、校種間連携の在り方

保護者や校種間、関係機関と連携した規範意識、情報モラルの向上

3. 特色ある実践事例の内容

★情報モラルについての体験的な学習を通じて思いやりの心を育て、人権意識を高める取組 「共に認め、高め合う集団作り」

(1) 取組を始めたきっかけ

本校では情報化社会の影響で、生徒の携帯電話やスマートフォンなどの所持率が上がり、パソコンやインターネットの使用時間が大きく増えている。その反面、規範意識に基づいて責任を果たす態度や他人の立場に立つ想像力・コミュニケーション能力等に課題が見られる。これらの実態を踏まえて「情報モラル」に焦点を当てたテーマを設定し、取組を進めた。

(2) 取組のねらい、目的

- ・調べ学習や討議、発表等の体験的な学習を通じて、情報社会の特性を知り、情報を大切にできる態度や危険回避、セキュリティについて学ぶ。
- ・相手の立場に立って考え行動する力を培いながら、思いやりの心を大切にし、人権尊重の視点に立って情報モラルを育てる。
- ・相手の立場に立ってわかりやすく伝える力、発表する力、聞く力を育てる。

(3) 教師の専門性を高める校内研修

ア インターネットの特殊性等

- ・全職員が「情報モラル」に関する講演会「ソーシャルサイトのリスク ～あなたの書き込みは消せない～」(兵庫県情報セキュリティサポーター 篠原嘉一氏)に参加し、研修を深めた。
- ・「先生のための情報モラル指導チェックシート」(文部科学省委託事業、情報モラルポータルサイト)を活用し、自己の実践を振り返り、課題を把握した。

イ 表現力の向上等を図る指導方法の工夫

- ・生徒に身につけさせたい「表現力」の中身について研修の時間で協議し、教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間の4領域での指導内容や指導方法等について年間指導計画をもとに共通理解を図った。
- ・「話し合いの仕方」、「まとめ方」、「発表の仕方」について全職員が分担して原案をもとに協議し、生徒の指導に生かせるようにまとめた。
- ・全職員が教師としての力量を高め、「教師の一方通行の知識伝達中心の授業から生徒が主体となる授業へ変える」「思考させる場面や判断させる場面、表現させる場面がある授業を展開する」ことをテーマに「授業改善シート」を作成した。
- ・研究授業や公開授業を教師が問題提起をする場と捉え、年間計画に位置づけるとともに、事後研修会をワークショップ型のものに改善し、実際に協議、まとめ、発表を体験する中で得た体験を生徒への指導に生かせるようにした。

ウ 家庭、地域、校種間連携の在り方

- ・生徒が作成し、「家庭情報モラルクイズ」として家庭に持ち帰り、保護者にも挑戦してもらった。その結果と分析を文化祭で掲示した。
- ・「情報モラルチェックシート」を活用して全家庭にアンケートをとり、それを分析して、学校通信等で家庭に啓発を行った。
- ・「情報モラルチェックシート」を活用して地元の高校1年生にアンケートをとり、中高通しての課題や問題を分析した。

(4) 各領域における取組

ア 情報モラルとネチケツト（技術科：3年生）

技術の授業で3年生を9つのグループに分け、情報モラルやネチケツトをテーマに授業で学んだことや自分たちで調べたことをパワーポイントにまとめ、プレゼンテーションをした。1学期末に各グループとも準備を完了し、2学期の授業でプレゼンテーション発表会を実施した。

実施計画 全体7時間

- | | |
|--------|---------------------|
| 第1次 | グループ分け、テーマ決定 |
| 第2次 | 情報収集の仕方とパワーポイントの使い方 |
| 第3次～5次 | 発表用プレゼンテーションの作成 |
| 第6次 | プレゼンテーション発表会（学年） |
| 第7次 | プレゼンテーション発表会（全校） |



[調べ学習の様子]



[プレゼンテーション発表会の様子]

イ 情報モラルに係る全校生徒や保護者への啓発（総合的な学習の時間：1年生）

情報モラルを啓発するものとして、ポスター・リーフレット・CM・ビデオ劇の中から班で一つ選択し、制作する活動を行った。各班が、調べ学習も行いながらそれぞれのものを制作し、完成させることができた。これらを文化祭で展示し、全校生や保護者に情報モラルの啓発を行った。

○ 発表の形態と内容

- ・ポスター：無料サイトやチェーンメール等について
- ・リーフレット：オンラインゲームや出会い系サイト等について
- ・CM：不正ダウンロードや個人情報載せる危険について
- ・インターネットでのいじめやネット依存症について



[情報モラルポスター]



[情報モラルリーフレット]

○ 実施上の課題と課題解決に向けた工夫

- ・生徒の体験的な活動を支えるキーワードを「表現力」「コミュニケーション能力」と捉え、校内研修との連携を強化し、組織的な取組になるように工夫した。
- ・「表現力」を「自分のもっている知識・自分の考えや気持ちを言葉を使って正確に相手に伝える力、受け取る力」と定義し、「共に認め、高め合う集団づくり」に不可欠な力と考えて実践を重ねた。

○ 話し合いの仕方、まとめ方、発表の仕方についての校内研修

- ・生徒は「表現力」や「コミュニケーション能力」に課題をもっている。どのようにして話し合い、それをまとめて発表するかが理解できていない。そのため、話し合いの仕方、まとめ方、発表の仕方等、校内研修の時間を通じて全教職員で討議し、指導方針や指導内容をまとめ、実際の指導や支援に生かしながら実践した。
- ・研究授業の事後研究会をワークショップ方式で行い、教師自身が実際に多くの意見を出し、まとめ、発表する体験を重ねた。このことで生徒が実際に討議し発表する際に、教師が自分自身の体験をもとに、生徒の視点に立った具体的なアドバイスや指導ができるようにした。

<校内研修ワークショップの様子>



4. 実践事例の実績、実施による効果

(1) 情報モラルとネチケット

- ・生徒は、グループごとのテーマ設定により、「情報モラル」の学習に強い興味と関心をもって取り組み、ネット社会の危険性、マナーやルール等について、大変深まりのある学習となった。
- ・メールやチャット、ブログなどで悪口を書くことが良くないことや著作権の侵害が大きな罪になることを学び、人権尊重の視点で正しく考え、判断する力が育ってきている。
- ・相手の立場に立って発表を工夫したことにより、わかりやすく相手に伝え発表する方法についての学習を深めた。

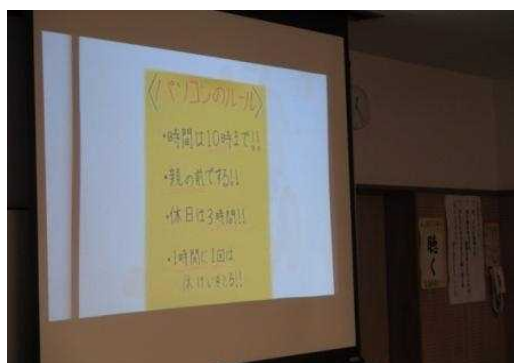
<生徒の感想>

私は、よくインターネットを利用したり携帯でいろいろなことを調べたりすることがあります。でも今回の授業を通じて「インターネット」の便利さと恐ろしさを知りました。軽い気持ちでやったことが大きな事件に発展したり、相手にだまされてお金を求められたり・・・書き込みなども、自分は軽い気持ちでやったつもりでも相手の気持ちを傷つけるということがよくわかりました。私はこの学習をこれからの生活に生かして、正しい情報を選択し、正しい判断や行動をしていきたいです。

(2) 情報モラルに係る全校生徒や保護者への啓発

- ・生徒は自らの体験を振り返りながら、身近で起こりうるトラブルと、その対処法を考え、表現することができた。
- ・それぞれの啓発物を共有することで、情報モラルについて、学び、高め合うことができた。
- ・文化祭での展示によって、他学年の生徒や保護者に、情報モラルについて考えてもらう機会とし、家庭との連携につながった。

<文化祭での上映の様子>



(3) 実践後に学校行事等で効果を上げた事例

- ・「共に認め、高め合う集団作り」を目指して体験的な活動に取り組んだため、クラスに好ましい支持的な雰囲気生まれ、体育祭や文化祭等の学校行事の成功につながった。

・文化祭での英語のスピーチ、英語落語、意見発表、劇などに生徒が自ら意欲的に取り組み、観衆を感動させるような表現力を身につけた。

5. 実践事例についての評価

(1) 情報モラルとネチケツト

パワーポイントでの発表を通して、自分のもっている知識・考えや気持ちを言葉を使って正確に相手に伝える力、受け取る力が育ってきている。

この力が「思いやりの心」「相手の立場に立って考え、行動する態度」につながるとともに、「共に認め、高め合う集団作り」に生かされ、学校行事の成功につながった。

特に相手に自分の思いや考えを伝え、発表するためには、情報をまとめ、聞く人の立場に立って簡潔にわかりやすく説明することが重要であることを生徒は体験を通じて学んでいる。(下記、生徒の感想参照)

<生徒の感想>

パワーポイントの使い方がわかってきた。文章が長く、説明がわかりにくいと、聞いている人は興味がなさそうにしていました。でも上手な班は違いました。聞いている人に伝えたいことを伝えるには、キーワードをわかりやすく見せること、見ている人がぱっと見て分かりやすいようにグラフや絵を工夫すること、説明の文章を短くして聞く人にわかりやすくする、ということ学びました。

(2) 情報モラルに係る全校生徒や保護者への啓発

1年生のビデオ劇やポスター、リーフレットは文化祭で、多くの保護者や地域住民にも公開された。特にビデオ劇は好評で、係の教師が休憩する暇もないほど上映のリクエストがあった。(下記、保護者の感想参照)

<保護者の感想>

便利になった世の中ですが、その裏には恐ろしい危険があることや人権を傷つける危険がたくさんあるということを自分たちで調べたり、知るということは必要なことだと思います。情報モラルの大切さを理解し、自分や友達が正しい目にあわないように正しく判断し、行動してほしいと思いました。

【人権教育の指導方法等に関する調査研究会議によるコメント】

豊岡市立但東中学校

ICT 機器が急速に発達し、ますます日常生活に浸透していく中で、個別人権課題の中でも特に今日的といわれる「インターネットによる人権侵害」に主眼を置いた取組となっている。

取組の中身としては、主として教師の専門性を高める校内研修の進め方と生徒の情報モラル・ネチケットにかかる学習の在り方が二本柱として報告されている。校内研修では、全職員が「授業改善シート」を作成し、ワークショップ方式を取り入れた授業研究会を実施するなど、意欲的な取組がなされている。生徒の人権学習においては、パワーポイントによる発表を織り交ぜることで学習の定着が図られ、文化祭においてビデオ劇やポスター・リーフレット公開を行うことで、保護者・地域住民に対しても啓発がなされたことなどが報告されている。

各校の具体実践に、すぐにも生かせる好事例といえる。